

# 幸田姉妹 復興祈り初共演



大阪出身のバイオリニスト・幸田さと子(42)＝写真右＝と、ソプラノ歌手・浩子(39)＝同左＝の姉妹が7月10日、神戸市の松方ホールで東日本大震災復興のためのチャリティーコンサートを開く。プロの音楽家としての姉妹共演は初めて。今回のチケットは完売したが、10年間は姉妹でチャリティーを続けたいという。

## 来月からチャリティー

震災後、「大人になって初めて」というほど話し合った。「いま演奏する意味とは」「音楽に何ができるのか」。神戸在住のさと子と東京の浩子。電話で何時間も、ついには泊まりがけで話し込んだ。「人と人が集ったり、心を寄せ合ったりするのに、音楽はものすごく力を発揮する」(さと子)。「私と同じように、人生に音楽が不可欠と思っている方がいらっしやるはず」(浩子)。チャリティー演奏会をしよう、と決めた。

姉妹そろって幼い頃から音楽に親しんだ。さと子は、3歳で手にしたバイオリン一直線、神戸市室内合奏団で活動する。一方の浩子は、バイオリンは、ぶんぶん振り回すだけ。歌の道へ進んだ。欧州の歌劇場で経験を積み、

## 温かい曲 10年届けたい

国内のオペラ公演で主役級を演じるなど活躍中だ。

そんな2人は、ともに阪神大震災での苦い思い出を抱えてきた。

16年前、さと子が所属する神戸市室内合奏団の練習場も避難所になった。悩んだ末、その避難所でバイオリンソコを弾いた。ただ、選んだのはバッハの無伴奏曲など。「みなさんが聴きたいもの、一緒に歌えるものを届けられなかった。音楽家としてちゃんと曲を伝えないと、とうかたくななプライドがあったんです」。以来、当時の無力感を引きずってきた。

東京芸術大大学院で学んでいた浩子は、「勉強や試験、日々の自分のことで精いっぱいだった」。その未熟さを忘れられなかった、という。

今回の演奏会では、さと子は美空ひばりの「川の流れるように」を独奏、浩子はリスト「愛の夢」や山田耕筰「からたちの花」を歌う。デュオでは「アベ・マリア」のほか、今回のために委嘱した2曲も披露する。「超絶技巧をきかせるより、復興のために祈る温かい気持ちを持ち寄れるようなプログラムを考えたい」。ピアノは藤満健。収益はユニセフの「東日本大震災緊急募金」に寄付する。

演奏会のチラシにあえて「vol.1」と銘打った。少なくとも10年間は姉妹でチャリティー演奏会を続けるつもりだ。

(尾崎千裕)